

米国向け11月1~21日の荷動き
(単位=TEU)

母船積み地ベース

積み地	貨物量	前年同月比	前月比
中国	468,779	2.5%	▲2.3%
韓国	88,710	18.7%	12.2%
香港	66,292	▲3.4%	▲2.3%
台湾	50,460	4.6%	▲2.3%
日本	39,337	5.3%	1.7%
シンガポール	32,670	1.3%	5.2%
ベトナム	13,157	28.4%	▲11.3%
マレーシア	9,892	▲3.0%	5.8%
タイ	9,218	▲7.1%	▲9.9%
インド	8,627	▲10.3%	▲9.1%
合計	787,143	3.7%	▲0.6%

荷受け地ベース

積み地	貨物量	前年同月比	前月比
中国	528,326	4.7%	▲0.8%
韓国	45,620	7.1%	0.9%
日本	40,908	7.6%	▲9.5%
香港	30,694	▲6.0%	▲11.8%
台湾	29,265	3.3%	▲1.0%
ベトナム	27,583	7.1%	▲1.0%
インド	25,035	13.5%	1.7%
インドネシア	22,089	4.6%	16.3%
タイ	18,981	▲9.1%	▲8.5%
マレーシア	11,679	2.0%	7.2%
合計	780,179	4.4%	▲0.7%

Zepol Corporation Trade IQ より

11月1~21日のアジア発米国向け

6カ月ぶりプラス

ゼポ社統計 3.7%増の78万7000 TEU

米国のゼポ・コーポレーション (Zepol Corporation、本社=シネアポリス) の統計によると、11月前半の3週間(1~21日)におけるアジア主要10カ国発米国向け東航荷動きは、母船積み地ベースで前年同月比3.7%増、前月比0.6%減の78万7143TEUとなった。11月全体の実績ではないものの、東航荷動きが前年同月実績からプラスになるのは6カ月ぶり。今年後半の荷動きはさえない展開が続いたが、年末商戦に向けて荷動きに盛り上がりが見られる。一方、洪水に見舞われたタイ出しは大幅な減少となった。

ゼポ社によると、11月前半における米国の輸入は、アシア発だけでなく欧州出ても9.9%増と増加している。ただ年末商戦に向けての荷動き増のため、12月以降も同じ勢いが続くとは考えにくく、通年での東航荷動きが前年割れで終わる可能性は依然として高い。

タイ出し減少顕著

アジアでは中国が6カ月ぶりのプラス。日本は母船積み地ベースで5.3%増、荷受け地ベース(釜山経由なども含む日本出し)で7.1%増と5カ月ぶりの増加。韓国は母船積み地ベースでの伸び率が18.7%増と高く、トランシップ貨物の増加ぶりがうかがえる。一方、東南アジアでは10月の洪水で大きな被害を受

けたタイが、母船積み地ベースで7.1%減、荷受け地ベースで9.1%減と大幅な減少。その後の復旧作業に時間がかかっていることから、タイ出しについて

は当面、前年実績を下回る形で推移するものと見られる。ベトナムは28.4%増と大幅な増加。荷受け地ベースでも7.1%増と堅調な荷動きを維持している。

きょうの紙面

2面

TIACTが航空集配サービスに委託
生鮮2次仕分け、キロ10円

3面

ゼポ社統計 11月1~21日のアジア発米国向け
6カ月ぶりプラス

4面

記者 ロジスティクス この1カ月
座談会 消えたピークシーズン

6面

日通の全国混載センター設置1年
窓口一本化で情報集約